



# 2010年度決算、2011年度業績予想について

---

2011年5月13日

# NTT Com単体およびグループの決算概況



(単位:億円)

区 分	2009年度	2010年度	増減	増減率	2011年度	増減	増減率
	通期実績(A)	通期実績(B)	(B)-(A)	%(A)→(B)	通期業績予想(C)	(C)-(B)	%(B)→(C)
営業収益	10,792 (12,596)	10,334 (12,542)	△458 (△54)	△4.2 (△0.4)	10,130 (12,600)	△204 (+58)	△2.0 (+0.5)
営業費用	9,817 (11,614)	9,401 (11,563)	△416 (△51)	△4.2 (△0.4)	9,260 (11,600)	△141 (+37)	△1.5 (+0.3)
営業利益	975 (982)	932 (979)	△42 (△3)	△4.4 (△0.4)	870 (1,000)	△62 (+21)	△6.7 (+2.2)
税引前当期純利益	1,085	1,001	△83	△7.7	970	△31	△3.1
当期純利益	606	689	+82	+13.6	570	△119	△17.3
設備投資	1,076 (1,290)	1,153 (1,340)	+76 (+50)	+7.1 (+3.9)	1,360 (1,680)	+207 (+340)	+18.0 (+25.4)

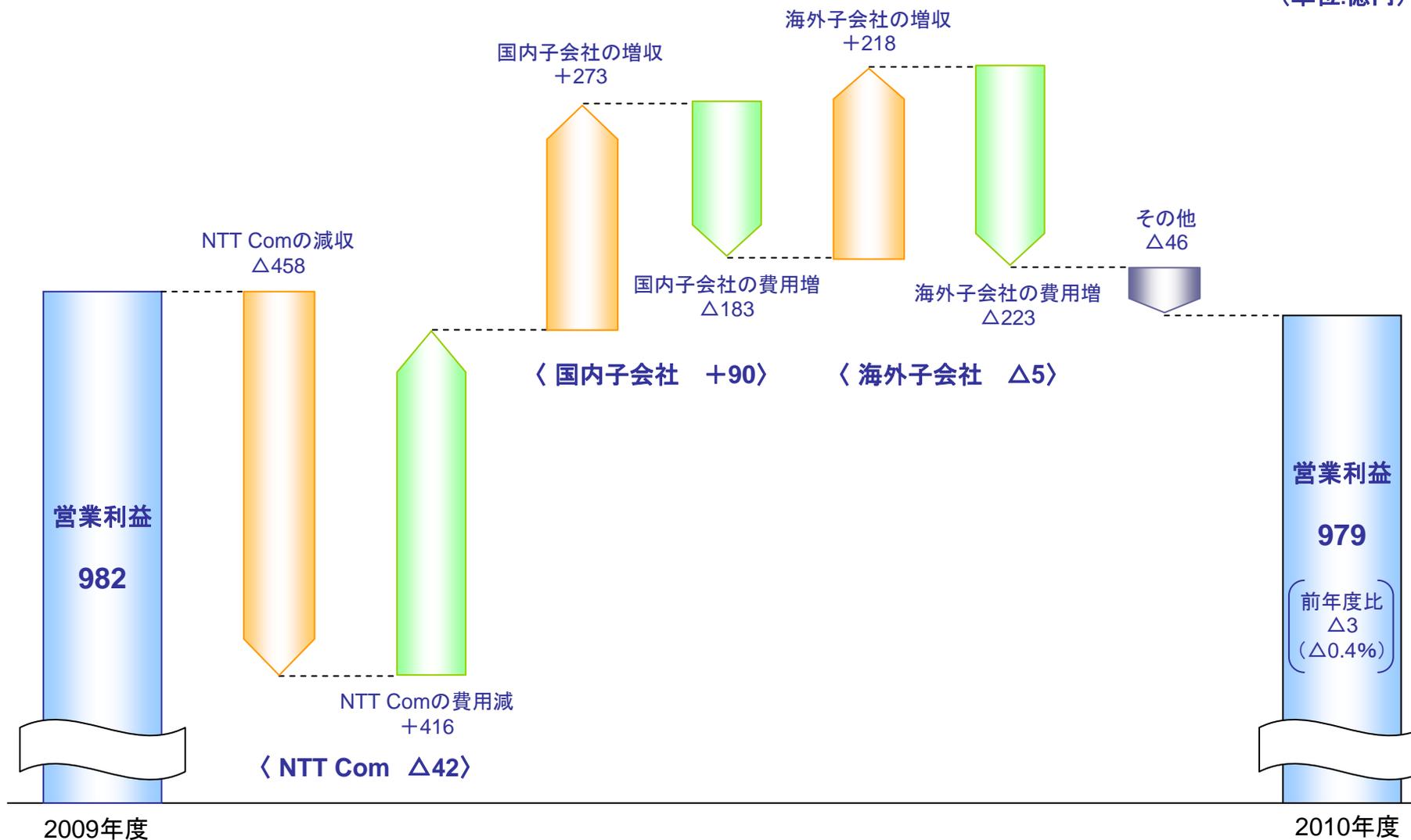
(注)上記は、NTT Com単体の数値

( )は、NTT Comグループ(単体+子会社)の内部取引相殺消去等実施後の数値

# NTT Comグループ営業利益の主な増減要因 (2010年度実績)



(単位:億円)



# NTT Com単体の営業収益・営業費用等の内訳 (2010年度実績)



## 営業収益

(単位:億円)

区 分	2009年度	2010年度	増減 (B)-(A)	増減率 %(A)→(B)
	通期実績(A)	通期実績(B)		
営業収益	10,792	10,334	△458	△4.2
音声伝送収入	3,789	3,533	△256	△6.8
I P 系収入	3,648	3,611	△37	△1.0
データ収入	1,201	1,113	△87	△7.3
ソリューション収入	1,865	1,814	△50	△2.7
その他の収入	287	260	△26	△9.3

## 営業費用

(単位:億円)

区 分	2009年度	2010年度	増減 (B)-(A)	増減率 %(A)→(B)
	通期実績(A)	通期実績(B)		
営業費用	9,817	9,401	△416	△4.2
人件費	948	943	△4	△0.5
経費	4,799	4,547	△251	△5.2
通信設備使用料	2,688	2,639	△49	△1.8
減価償却費	1,160	1,076	△84	△7.3
固定資産除却費 租税公課	219	194	△25	△11.7

## 有利子負債

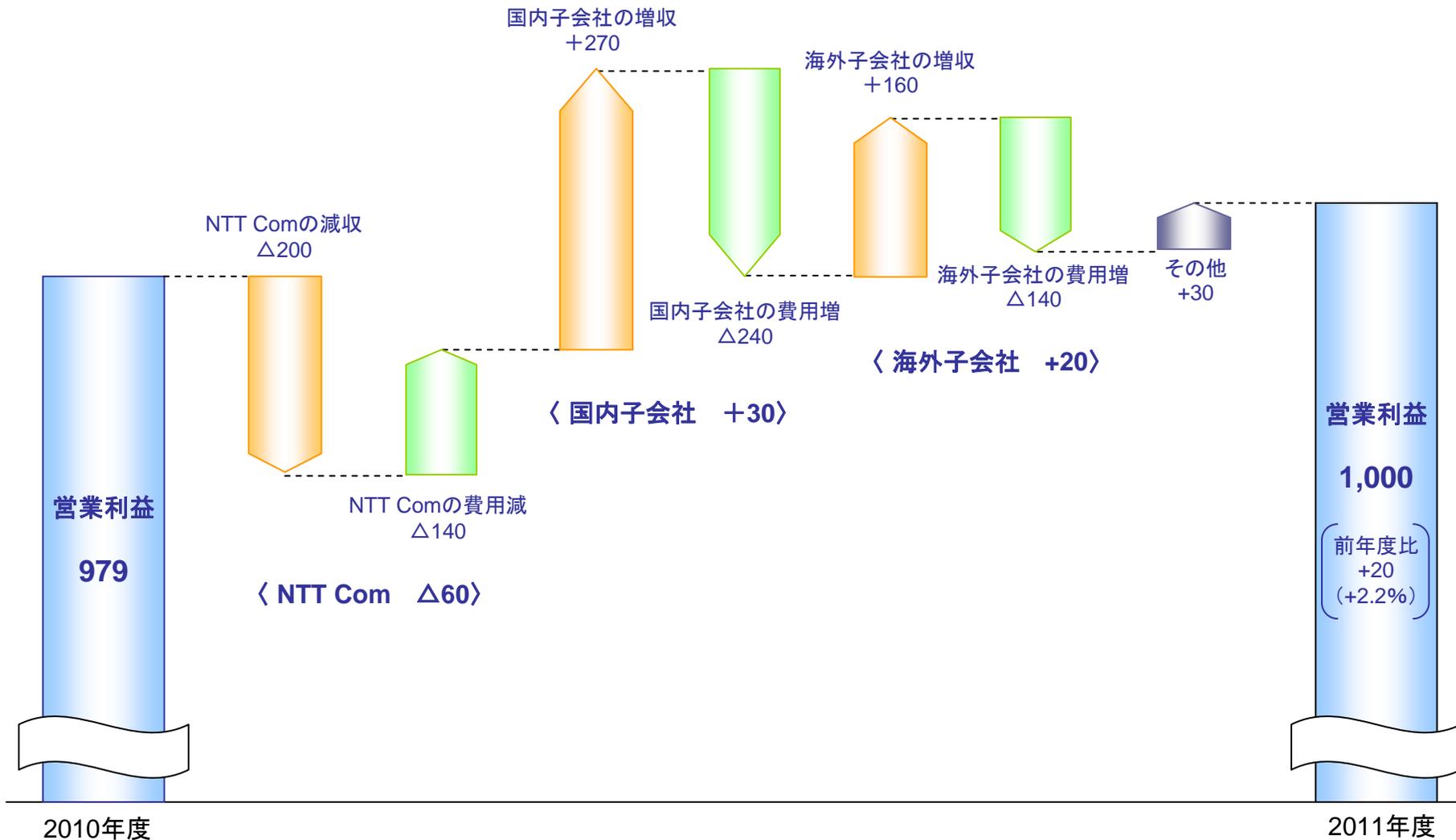
(単位:億円)

区 分	2009年度	2010年度	増減 (B)-(A)	増減率 %(A)→(B)
	通期実績(A)	通期実績(B)		
有利子負債 (有利子負債比率)	1,890 (22.9%)	1,444 (17.3%)	△446	△23.6

# NTT Comグループ営業利益の主な増減要因 (2011年度業績予想)



(単位:億円)



# 「ビジョン2015」と2011年度の主な取り組み



新たな事業ビジョン「ビジョン2015」のもと、アジアでの現在の強みをさらに強化し、世界中のお客さまにとって最適なパートナーとして選ばれる、真のリーディンググローバルプレーヤー（Global ICT Partner）となることを目指す

2015年度の目標指標

NTT Comグループ営業収益: 1.5兆円以上  
(グローバル収益: 2倍以上)

## SI・クラウド基盤

- ・クラウド型ホスティング「Bizホスティング」の強化
- ・グローバルでのデータセンターの拡充(香港 TKO、シンガポール セランゲーン)

## アプリケーション & コンテンツ

- ・ひかりTVのサービスの拡充(2010年度末141万→2011年度末190万)
- ・BizCITYアプリケーションの展開(Bizデスクトップ、Bizストレージなど)

## データネットワーク

- ・企業向け新ネットワーク「Universal One」の提供
- ・国際海底ケーブルの拡充 (Asia Submarine-cable Express)

## ボイス コミュニケーション

- ・グローバルでのユニファイドコミュニケーションサービスの提供

海外グループ企業との連携強化  
国内  
外  
シ  
ーム  
レ  
ス

「ビジョン2015」の達成に向けて、国内外シームレスなサービス提供に努め、グループのトータルパワーを最大限に発揮した取り組みを推進

## ■ プロセス改善

- ・サービス・営業・保守運用の国内外シームレス化の徹底
- ・プロダクト横断的なプロセスカイゼン／オフショア化の推進など

## ■ 組織再編(今夏に実施予定)

- ・全社リソースを最大限活用した一体運営を目的に、事業部制を廃止し、国内外シームレスな機能別組織に移行(セールス組織、プロダクト組織、オペレーション組織)

## ■ 人事／育成

- ・グローバルHRM(Human Resource Management)の拡充
- ・新入社員の海外現地法人派遣プログラムの実施など

# (参考)事業分野別収益の状況 (2011年度業績予想)



(単位:億円)

	2010年度	2011年度		
	通期実績	通期業績予想	対前年実績	対前年増減率
<b>営業収益</b>	<b>10,334</b>	<b>10,130</b>	<b>△204</b>	<b>△2%</b>
	<b>(12,542)</b>	<b>(12,600)</b>	<b>(+58)</b>	<b>(+0%)</b>
SI	1,670	1,730	+60	+4%
	(2,230)	(2,330)	(+100)	(+4%)
クラウド基盤	330	380	+50	+15%
	(820)	(920)	(+100)	(+12%)
アプリケーション&コンテンツ	310	400	+90	+29%
	(1,010)	(1,270)	(+260)	(+26%)
データネットワーク	4,050	3,970	△80	△2%
	(4,480)	(4,400)	(△80)	(△2%)
ボイスコミュニケーション	3,790	3,480	△310	△8%
	(3,830)	(3,520)	(△310)	(△8%)
<b>(再) NTT Comグループ グローバル事業</b>	<b>1,390</b>	<b>1,520</b>	<b>+130</b>	<b>+9%</b>

(注1)上記は、NTT Com単体の数値

( )は、NTT Comグループ(単体+子会社)の内部取引相殺消去等実施後の数値

(注2)上記の計数は、決算値をベースに国内外子会社の数字を加え、組み替え・内部取引相殺消去を行った社内管理数値、内訳は再掲である。

# 東日本大震災による被害の復旧状況 - 国内中継ケーブル -

- ・被災した通信設備の復旧などに伴う影響額は、総額30億円となる見通し
- ・国内中継ケーブルは、3ルート中、2ルート(東北道、常磐道ルート)が被災。東北道ルートは3月14日に復旧。常磐道ルートは現時点復旧困難なため、他ルートへの振り替えを実施。

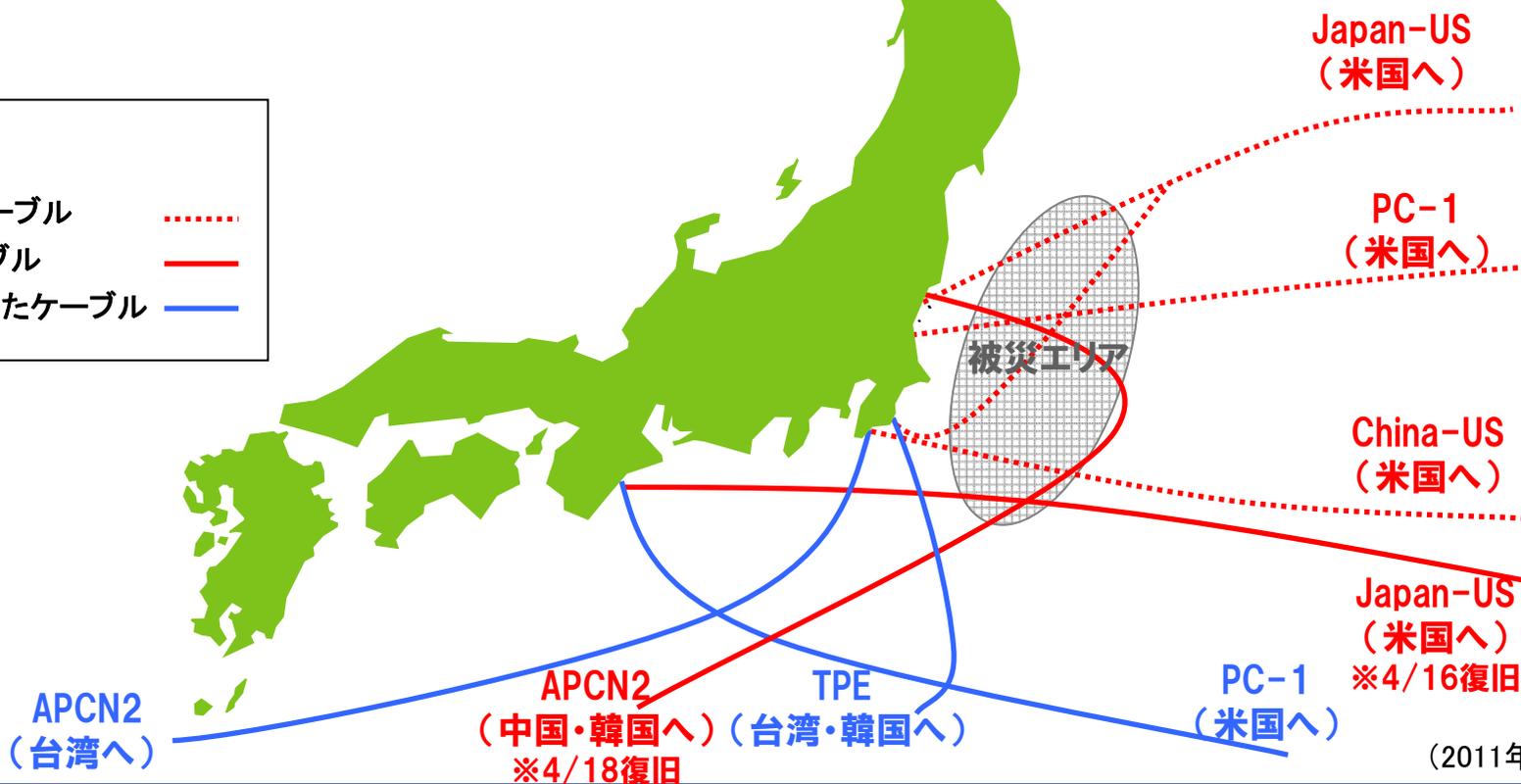


# 東日本大震災による被害の復旧状況 - 国際海底ケーブル -

Japan-US、APCN2、China-US、PC-1が被災したが、順次復旧中

## <主な米国・アジア向けケーブル>

- <凡例>
- 被災中のケーブル .....
  - 復旧済ケーブル ———
  - 被災しなかったケーブル ———



(2011年5月11日現在)

# (参考)NTT Comグループの主要サービスデータ



	2010年 3月末	2011年 3月末	対前年同期比 増減率
IP系NW (単位:千契約)	479	546	+13.8%
(再) OCN常時接続 (法人向け)	208	269	+29.2%
(再) Group-VPN	76	81	+6.0%
(再) IP-VPN	109	108	△0.9%
(再) ArcstarグローバルIP-VPN	6	7	+17.0%
(再) 広域イーサネットサービス (e-VLAN)	31	32	+2.2%
データ通信 (IP系除く) NW (単位:千回線)	697	648	△7.1%
ISP契約数 (単位:千契約)	11,030	11,423	+3.6%
(再) OCN	7,892	8,234	+4.3%
ひかりTV会員数 (単位:千契約)	1,009	1,413	+40.0%
マイライン登録数 (県間通話) (単位:千回線)	23,373	21,883	△6.4%
マイライン登録数 (国際通話) (単位:千回線)	21,307	20,056	△5.9%
海外拠点 (都市)	65	73	+12.3%
ケーブル ケーブル容量 (日～米) (単位:Gbps)	500	660	+32.0%
ケーブル ケーブル容量 (日～亜) (単位:Gbps)	340	500	+47.3%

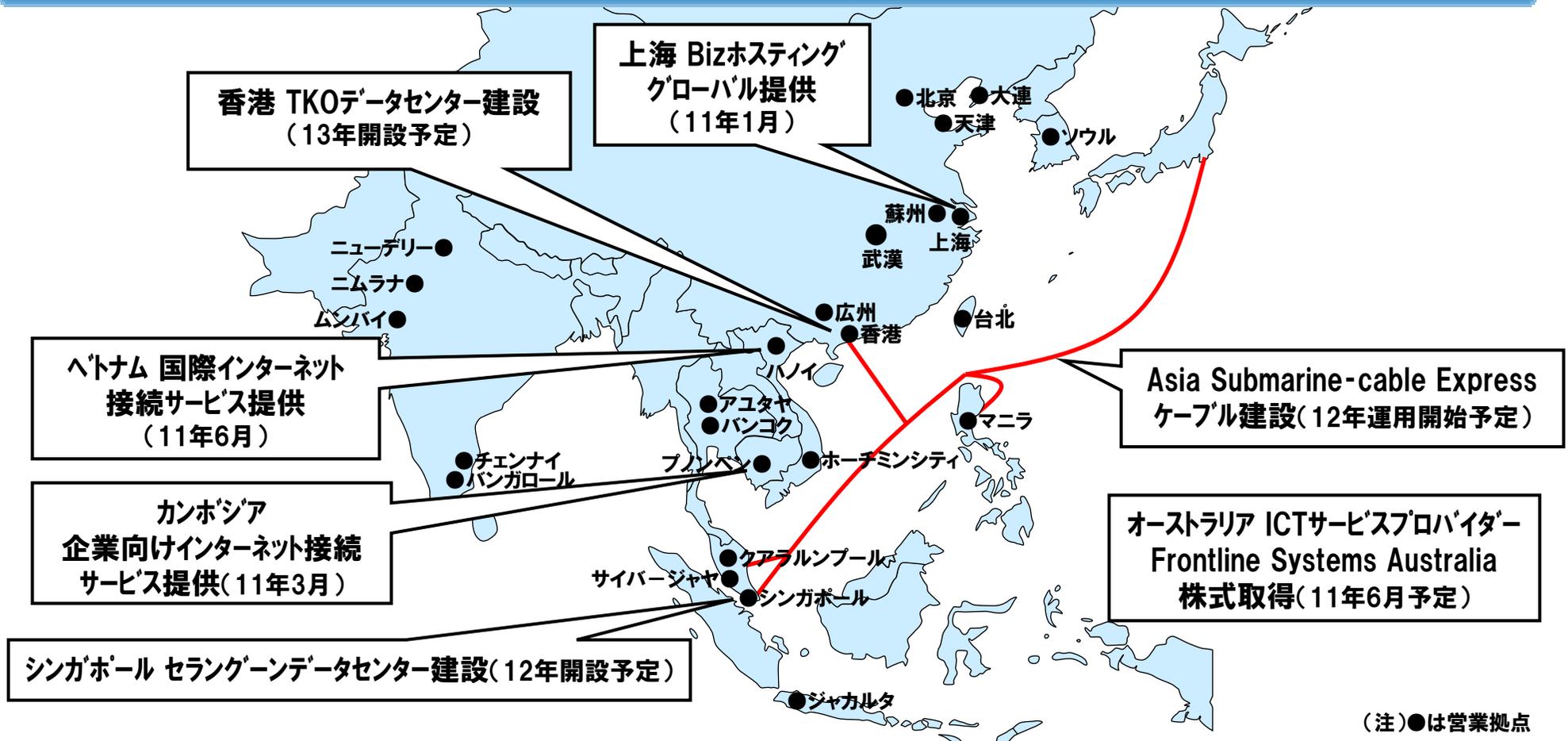
注1 ISP契約数には、OCN、ぷらら、InfoSphereが含まれております。

注2 IP系NWには、Arcstarグローバルe-VLAN及びNTTPC提供NWサービス(ブロードバンド・イーサ、セキュア・インターネットVPN等)等が含まれております。

注3 データ通信(IP系除く)NWには、アナログ/デジタル専用線(HSD/DR)、ギガストリーム(TypeG及びTypeF)、スーパーリレーFR/CR、パケット通信、Arcstarグローバル専用線等が含まれております。

# (参考) アジアにおける事業展開

- ・アジアにおいて、営業拠点やサービス提供エリア、ネットワーク・データセンターを拡充
- ・ハブ拠点DCを高速NWでつないだクラウド基盤「アジア・トライアングル構想」の推進
- ・Telecom Asia Awards 2011では「Best International Wholesale Carrier」賞を受賞



# (参考)NTT Comグループの新たな事業ビジョン 「ビジョン2015」



## 5年後になりたい姿 『世界で認められるグローバルICTサービス事業者』

アジアでの現在の強みをさらに強化し、世界中のお客さまにとって最適なパートナーとして選ばれる、真のリーディンググローバルプレーヤーとなることを目指します



本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を用いてなされもしくは算定したものです。

将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。